

地域密着型サービス自己評価票

- 指定小規模多機能型居宅介護
(指定介護予防小規模多機能型居宅介護)
- 指定認知症対応型共同生活介護
(指定介護予防認知症対応型共同生活介護)

(よりよい事業所を目指して・・・)

記入年月日	平成 20年 12月 30日
事業所名	せんねん村グループホーム吉良荘
事業所番号	2375900327
記入者名	職名 管理者 氏名 早川 正徳
連絡先電話番号	0563-34-9122

(様式1)

自己評価票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	・「こころのびのび からだいきいき いのちきらきら」をホームの理念とし、利用者の個性を大切にし自立のお手伝いをさせていただいている。利用者の方が、ここに来て良かった、暮らせて良かったと思っただけのように取り組んでいる。	
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	・ 部署目標、個人目標を掲げ日々のケアに取り組んでいる。気軽に話し合える環境にあり、改善点があればその都度対応している。	
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	・ 入居者家族に対しては、入居契約時やサービス担当者会議の際に伝えている。しかし、地域の人々には伝える機会がない。	
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	・ ホームの場所が奥まった所にあるため、気軽にはいかないが、地域の行事に参加したり、八百屋さんやスーパーなどに出かけ、そこで日常的な付き合いができています。	
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	・ 町内で行われるゴミ拾い、草取り、お祭りなどに参加し地元の人々と交流することに努めている。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>・電話での問い合わせがあった時には、親身に話しを聞き助言をしている。その他、地域の暮らしに役立てるような取り組みはしていない。</p>	<p>・職員同士の話し合いが必要</p> <p>・運営推進会議で話し合う</p>
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>・一年間の自分たちの仕事の振り返りだと捉えている。昨年度の評価結果を元に、毎月行なわれるミーティングで話し合う機会を設けている。</p>	
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>・運営推進会議では、外部評価結果の報告、活動内容、実績の報告、意見交換等を行なっている。会議に参加できなかった職員に対しては、報告する機会を設けており周知徹底している。</p>	
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>・これといった用がないかぎり行き来はしていないが、関係は良好であると思う。</p>	<p>・役場で行なわれる催し物に積極的に参加していく。</p>
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>・地域権利擁護事業や成年後見制度について、現在これらの制度利用している利用者がいないため、周知している職員も少ないと思う。</p>	<p>・地域権利擁護事業や成年後見制度に関する勉強会に参加していく。</p>
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>・虐待や拘束行為などが無いように、職員同士が注意し合っている。利用者の方の皮膚観察や声掛けの仕方等にも注意を払っている。</p>	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>・契約の際は時間をかけ、十分に説明するようにしている。</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>・日常生活の中で利用者が気軽に思ったこと（意見、不満、苦情）を表現できる雰囲気があり、実際に伝えられている。その際は、職員同士で話し合われている。</p>	
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	<p>・家族の方が面会にこられた時には、日常の様子、体調などを伝えている。また、特変時や事故が起こった際には随時連絡するようにしている。</p>	
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>・サービス担当者会議や運営推進会議の際に意見をお聞きしている。また、1年に1度家族向けにアンケートを実施しており、サービスに反映している。</p>	
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>・問題点があればミーティングの議題として取り上げ、職員同士で話し合い解決している。また、職員個人に対しては年に2度個人面談を行い、意見や提案を聞く機会を設けている。</p>	
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>・勤務体系については、必要に応じ組み替えて対応している。しかし、どうしても職員が一人につきりになる時間があり不安である。</p>	<p>・ご利用者の要望に柔軟に対応することが出来ないことがあるため、もう少し職員の余裕がほしい。</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	・ここ一年職員の入れ替わりが多かったが、その都度利用者、家族へ説明し不安感を少なくするよう配慮している。		
5.人材の育成と支援			
19 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・法人内の研修や勉強会に参加し、参加できなかった職員に対しては、参加した職員がミーティング時に報告し情報を共有している。外部研修は可能な限り参加するようにしている。		・各職員にどのような研修に参加したいか要望を聞き、それに応じた研修を受けるようにしていきたい。
20 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・同法人内の事業所とは交流があるが、他事業所との交流はあまりない。最近、近隣のグループホーム同士の研修、交流会があり、今後も継続して参加していきたい。		・近隣の施設と交流する機会を設けていく。
21 職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	・年に2度個人面談があり、悩みやストレスに感じることが話せる機会がある。職員同士が思ったことを何でも口に出せる環境にある。		
22 向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	・年に2度個人目標を立て、自分の仕事の行動計画を立てて仕事に取り組んでいる。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>・本人に希望を聞いたり、家族よりその人の生活歴を聞き、グループホームでの生活に不安が無いように努めている。</p>	
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>・相談時より出来るだけホームに来ていただき、ホームの見学と相談を受ける時間を設けるようにしている。</p>	
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>・相談を受けた際、グループホームがこういった施設であるのかを説明し、その人に合ったアドバイスをするようにしている。</p>	
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>・入居前には見学に来てもらい、ホームの雰囲気を感じてもらっている。また、お試し入居も行ってあり、徐々に慣れていただける様にしている。</p>	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>・この地方の方言や、料理方法、縫い物の仕方など、その人その人が持っている特技を聞き出し、教えてもらいながら生活している。</p>	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	・ホーム側だけでは出来かねないことは、家族の方に協力していただき利用者を共に支えている。		
29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	・利用者、家族双方の話から、関係について理解している。その上で、家族にお願いできること出来ないことを決めている。		
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・近所のスーパーや八百屋さんに行くと、昔からの知り合いの方に合い、懐かしそうにお話をされることがある。家族の方にも協力を仰ぎ、昔からよく行っていた所に外出する事もある。		
31 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	・相性の合う人合わない人の人間関係を理解して支援している。職員が間に入ることで、利用者同士の関係円滑に保っている事もある。		
32 関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	・グループホームを退去された方にも、面会に行くことがある。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1.一人ひとりの把握			
33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>・本人や家族より思いや意向を聞いている。日頃の会話の中からも、どのようなことを望まれたいのかを聞き一緒に行なっている。</p>	
34	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>・入居時に生活歴を聞き取り、出来るだけ自宅と同じ生活環境を継続できるように取り組んでいる。</p>	
35	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>・ご利用者の居場所を把握し気配りしている。日頃と違う状態が見られた時には、情報を共有するようにしている。</p>	
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>・本人家族の意向をサービス担当者会議の際お聞きし、ケアプランに反映している。</p>	
37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>・介護計画は3ヵ月に1度見直しを行なっている。体調に変化が見られたときには、プランを見直している。</p>	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・日々の様子は、日報、介護記録に記入している。介護記録への記入方法を統一し、見やすい介護記録を残している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	・本人や家族の要望に応じ、その都度柔軟な支援をしている。ホーム側の出来ることは可能な限り行なうようにしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	・様々なボランティアグループの方に来ていただき、歌や芸を披露して頂いている。		
41 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	・ご利用者の状況に応じ、家族と相談したり、同法人の事業所や他事業所と連絡を取り合っている。		
42 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	・権利擁護に関して今の所事例は無いが、必要に応じて共同していきたいと思ってる。運営推進会議に参加していただいております。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・ご家族やご本人の希望を最優先にかかりつけ医を決め、適切な医療を受けられるように支援している。		
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	・協力医の医師は、認知症のお年寄りに対して理解があり、相談にも気軽に応じていただける。		
45 看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	・現在は看護師が不在であるが、困ったことがあった時には、同法人内の看護師やかかりつけ医に相談するようにしている。		・看護師不在のため不安な面がある。
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	・ご利用者が入院したときには、ご家族の方と連絡を密に取るようにしている。また、面会に行くことで本人の状態や病院関係所の方より情報を頂く様にしている。		
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	・入居時に事前指定書を取り交わし、家族と本人の希望を聞いている。		
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	・ご利用者が重度化した時には、本人家族かかりつけ医と話し合い方針を決定する様にしている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>・入居前に十分な情報収集をし、細やかなケアに努めている。些細な出来事においても、職員間で情報を共有できるようにしている。</p>	
<p>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>・プライバシーを損ねるような声掛けや対応をしないように注意している。プライバシーを損ねるような行為が見られたときには、職員間で注意しあうようにしている。</p>	<p>・他事業所にて利用者体験する。 ・認知症についての勉強会を開催する。</p>
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>・食事の時間やティータイムの飲み物、レクリエーションの有無をご利用者の気分に合わせて選んでいただいている。</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>・職員の人数によって、外出の希望は難しい時間はあるが、できる限り本人の意向にそえるように努力している。</p>	
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>・本人の希望により、通いなれた美容院に行く方、施設の床屋に行く方、職員によるカットを行っている。</p>	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・買い物は、ご利用者と一緒に食材を見て選んでいる。食事の準備でお盆をなど好きな物を選ばれたり、調理、片付けをスタッフと共に行っている。		
55 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	・食事はおやつ、飲み物などをご利用者の方に聞き、提供している。		
56 気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	・ミーティングの時、排泄の時間やオムツの使用について見直しを行っている。又、ご利用者がソワソワされている時は、トイレへ行くことにより、排泄の失敗が少なくなるようにしている。		
57 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	・なるべく希望をきいている。また手順書にそって、どのスタッフでも気持ち良く入れるようにしている。		
58 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	・週に一回はシーツ交換や布団干しを行っている。疲れているように見える方は、休息を勧めたり、横になることを勧めている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	・ご利用者の生活歴や興味のあることを知り、レクリエーションや役割がもつことができるように支援している。		


項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60	<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>・ご利用者のお小遣いは、ホームが管理をしている。一名ご自分で管理されている方がいます。欲しい物があれば、本人様に選んでいただき、購入している。</p>		
61	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>・なるべく希望にそって、買い物や散歩、ドライブなど行うようにしているが、時間によってはスタッフが足りず、時間をずらして出かけるようにしている。</p>		
62	<p>普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している</p>	<p>・日頃行くことのできない遠い所は、ご家族の方をお願いをしたり、イベントとして企画を組んで外出している。</p>		
63	<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>・希望時に自由に電話をかけている。毎年、年賀状を送っている。ご家族から年賀状をいただくこともある。又、スタッフに手紙を書いて下さることもある。</p>		
64	<p>家族や馴染みの人の訪問支援</p> <p>家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している</p>	<p>・面会に来られたら、お茶を提供したり。近況を尋ね世間話をしたり、くつろいでいただけるように心がけている。</p>		
(4)安心と安全を支える支援				
65	<p>身体拘束をしないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>・身体拘束はしていない</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	・日中は玄関は開いており、夜間のみ施錠している。居室の鍵は希望者のみ使用されている。		
67 利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	・職員はご利用者の居場所を把握するように心がけている。転倒のリスクの高い方は、居室で休んでいる時にも、こまめに訪室している。		
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	・全てをなくすのではなく、注意の必要なものや身に傷つくおそれのあるものは、ご利用者の手の届かない所へ保管しているが、その他は気軽に使用できるようにしている。		
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	・ひやりはっとや不適合報告書をあげ、事故が起こった日やミーティング時、サービスの検討や防止策について話し合っている。		
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	・消防署で救命救急の講習を受けている。利用者の急変や事故発生時、管理者や部署長、他のスタッフに連絡をとり、指示を仰ぐようにし、冷静な判断ができるようにしている。		
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	・避難訓練を年2回行っている。		・11月の運営推進会議で避難場所を聞き、現在どのようなことを行っているのか伺った。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
72	<p>リスク対応に関する家族等との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている</p>	<p>・事故があった場合は、ご家族に報告をしている。一人一人に起こりえるリスクをサービス担当者会議の時などで伝えている。</p>	
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている</p>	<p>・バイタル測定を定期的に行なっている。ご利用者の体調不良を感じた時にもバイタル測定をして、日報や介護記録に記入をし、情報共有をしている。</p>	
74	<p>服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>・病院受診に行かれた後、薬の情報を流したり、変更の内容については薬の紙を張り出し、情報共有している。</p>	
75	<p>便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる</p>	<p>・排便記録を毎日つけて把握している。便秘予防のために水分を多めに飲んでいただいたり、食事や運動に心がけている。</p>	
76	<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている</p>	<p>・一人一人にあった口腔ケア用品を使用し、毎食後、歯磨きを行なっている。就寝時には入れ歯の洗浄を行なっている。</p>	
77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>・毎月体重測定を行なっており、太りすぎの方や病気の方の食べる量を調整している。食事の摂取量の少ない方は、チェック表を作って管理をしている。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	・注射嫌いの方以外は、インフルエンザの予防接種を受けている。外出先から帰宅された時は手洗い、うがいをさせていただきようとしている。又、ノロウイルス予防のため、掃除の時に消毒を行っている。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	・毎日まな板や包丁などは消毒を行っている。消費期限や賞味期限を守り、作りおきした物は早く消費するようになっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	・玄関には季節感のある飾り付けがしてある。		・吉良荘の玄関がわかりづらいという意見があった為12月に門の辺りに看板を設置した。
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・食堂や廊下に季節の花を飾ったり、ご利用者の作品を飾り、温かみのある空間を心がけている。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・ご利用者の居心地がよいように、共用空間のソファやテーブルの配置を検討し、工夫している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 せるような工夫をしている	・今まで使用していた馴染みの物を持っていただ けるように入所時、ご家族に伝えるようにしてい る。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている	・日中は窓を開け、換気をしている。温度の調節 はご利用者に合わせている。		・冬は階段側のトイレが寒いため、検討しなけれ ばならない。
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活か して、安全かつできるだけ自立した生活が 送れるように工夫している	・手すりがとりつけられている。10月には、廊 下のじゅうたんの上にフローリングのクッション を張った。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工 夫している	・ご利用者の混乱され落ち着きのない時は、ス タッフが声かけをし、話をきくように心がけてい る。		・利用者体験を行なう。12月に認知症の知識を 得るため、講義を開催した。
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽し んだり、活動できるように活かしている	・庭に花壇を作り、花や野菜などを植え、ご利用 者と一緒に水やりや草取りを行っている。		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該 当 する 箇 所 を 印 で 囲 む こ と)
項 目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該 当 する 箇 所 を 印 で 囲 む こと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

・グループホーム吉良荘は、三河湾に面しており夏は海水浴客で賑やか、冬には見事な日の出を見ることができます。今年度よりリーダーが代わった事で、新しい視点・気付きによって日々改善しています。認知症の知識を深め、ご利用者の立場に立ったケアができるよう、他事業所で利用者体験を行う予定でもあります。また、各スタッフひとりひとりに係りを決め、行動目標から実績を報告し合うことで、各自責任を持ち取り組んでいると思います。